春為

へ13
3793
4

綠亭川柳作

升題曲互団扇

門へ13
3793
巻 4

遊仙窟

十三川柳作画

國貞画

緣亭川柳誌

嘉永七甲寅年初春新板

物とあるて祝はるゝ

早走り編数の宿次み嬉く花の旅戻り。無支み板元の古郷みもち著御土産

智恵の路金ゲ貪くゆり長途み困るともあれど。旅の耻い書捨とロ柏子の

故ゆ成祝ひ小書い名物の餅と同く。上甘味ゆ共一口ゆるし。宿帳そとみ

附を莫ぎちと怠の滞留みごまの蝿ゴ附て心を脇道み這入りて。

道み重い手不自由のごとく。讀の草臥の息を継紙数の一里塚み果

旅行はみ仲等く。先輩の鹿島立み何處迄とのへ筋を取極水雲万里の

巷都て旅驛のとのみあるみ附て是を思ふみ。稗史を戯作せる者い遠く

提灯入ど名み似ぬとも多き效ひさ春雨草紙み夕立の支も綴り。此

呼の橋音無川み掛ど。耳無山み聾笑壽の社もみられば暗ゴ峠も昼ゆ

若
雪

露

苔

若

玉

若

地獄尊

時
村

湯
高
村

文久二壬戌年新鐫藏版目録

遊仙沓春雨州紙　十九編　緑亭川柳作
田舍織糸線狹衣　二十編　一壽齋國貞画
五編　仝作
六編　同画
父漢土　母和朝　國姓爺一代記　中本三編　初編ヨリ　讀切マテ　假名垣魯文編　歌川芳直画
月宴更科譚　二編　三編　松園梅彦作　一勇齋國芳画
天神一代記圖會　中本一冊　柳下亭種員著　一勇齋國芳画
容色仙代萩　三編ニテ　讀切　一筆菴英壽作　一雄齋國輝画

東都書房　馬喰町貳丁目　錦耕堂藏板

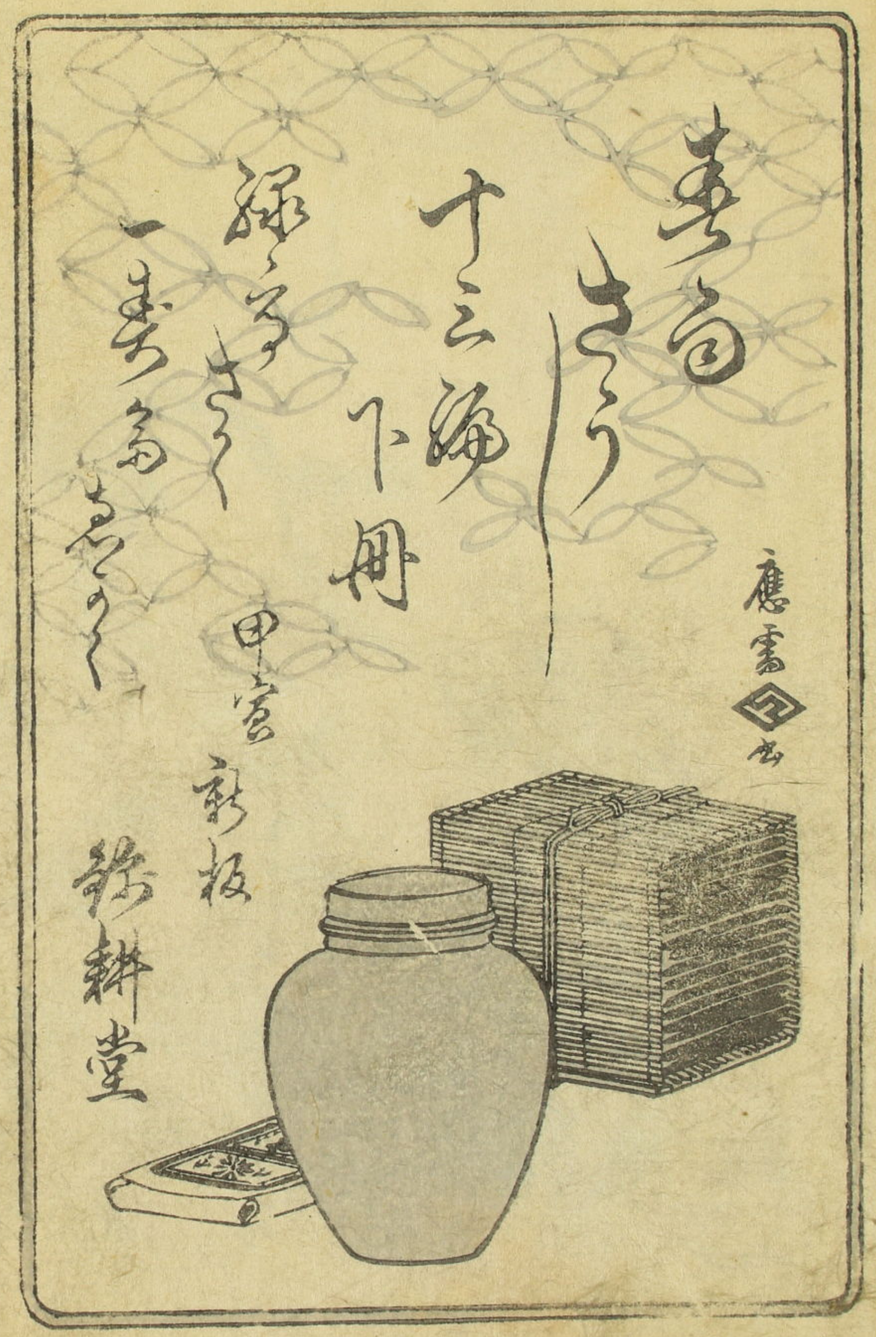
春雨

さうし

一壽齋國貞画

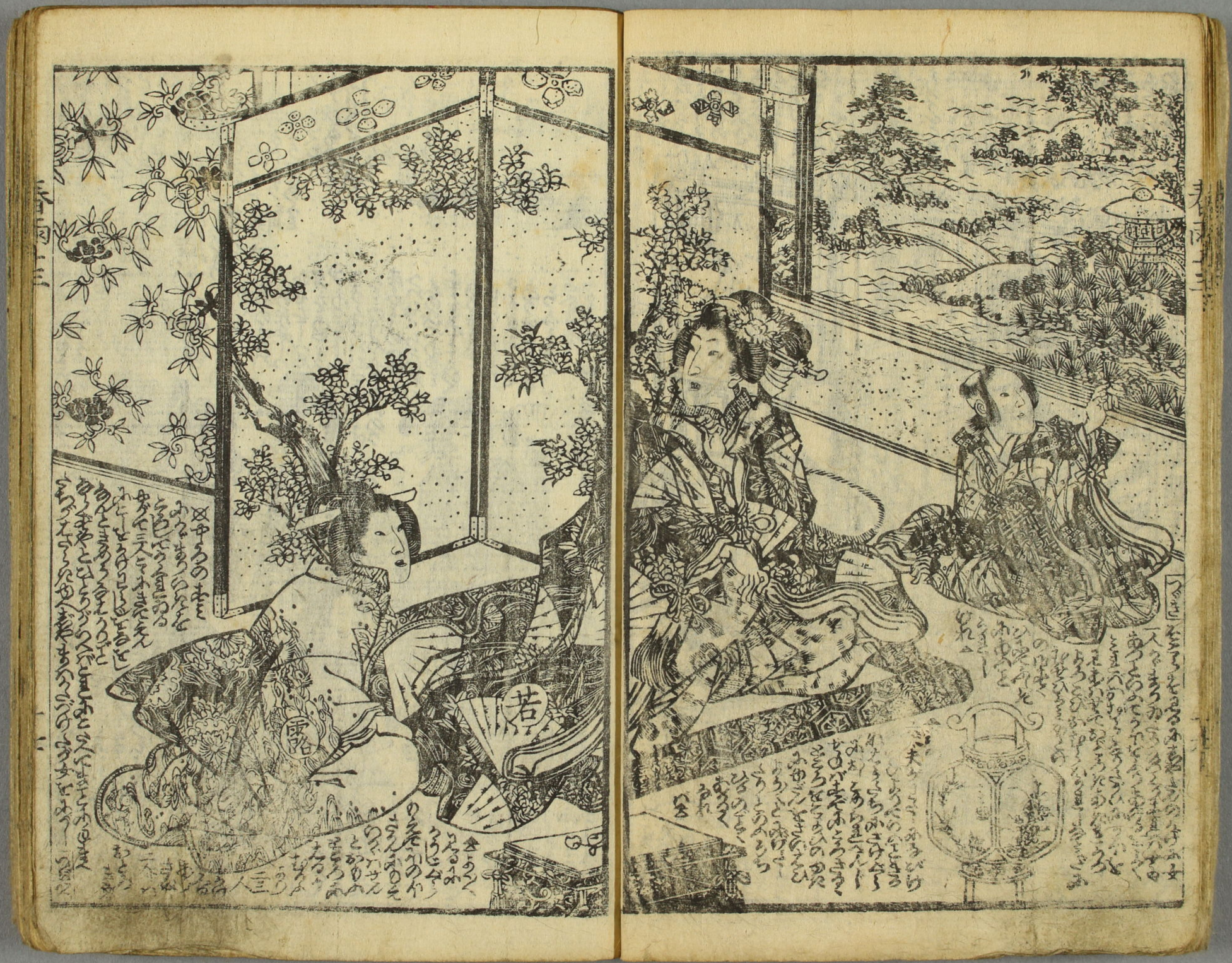
十三編下

彫耕堂版


十三編
下冊
彩板
彩耕堂

村

村
鶏



若
浮
宝

つぎさ
利

若
露
つぎ

藏版新刊珍奇雑書略目録

陸奥太郎後世譚 九編 西馬作 十編 貞秀画

岸柳四魔談 四編 同作 五編 國輝画

懲善惡 乘合噺 七編 柳下亭種員作 八編 一壽齋國貞画

詞花萱草紙 初編 墨川亭雪麿作 二編 一雄齋國輝画

初昔見聞淡紙 二編 有人作 三編 芳盛画

今様八犬傳 七編 春水作 八編 國芳画

俠像水滸 俠銘鑑 三編 西馬作 四編 國輝画

伊賀越仇討 樂亭西馬作 一鶯齋國周画

松園白妙譚 二編 泉成作 三編 國明画

書物地本繪草紙問屋 東都馬喰町二丁目西側 山口屋藤兵衛

緑亭川柳作

十四編上

遊仙窟

遊僻窟穀雨
浚帝拾四海 2

川柳作
國貞画

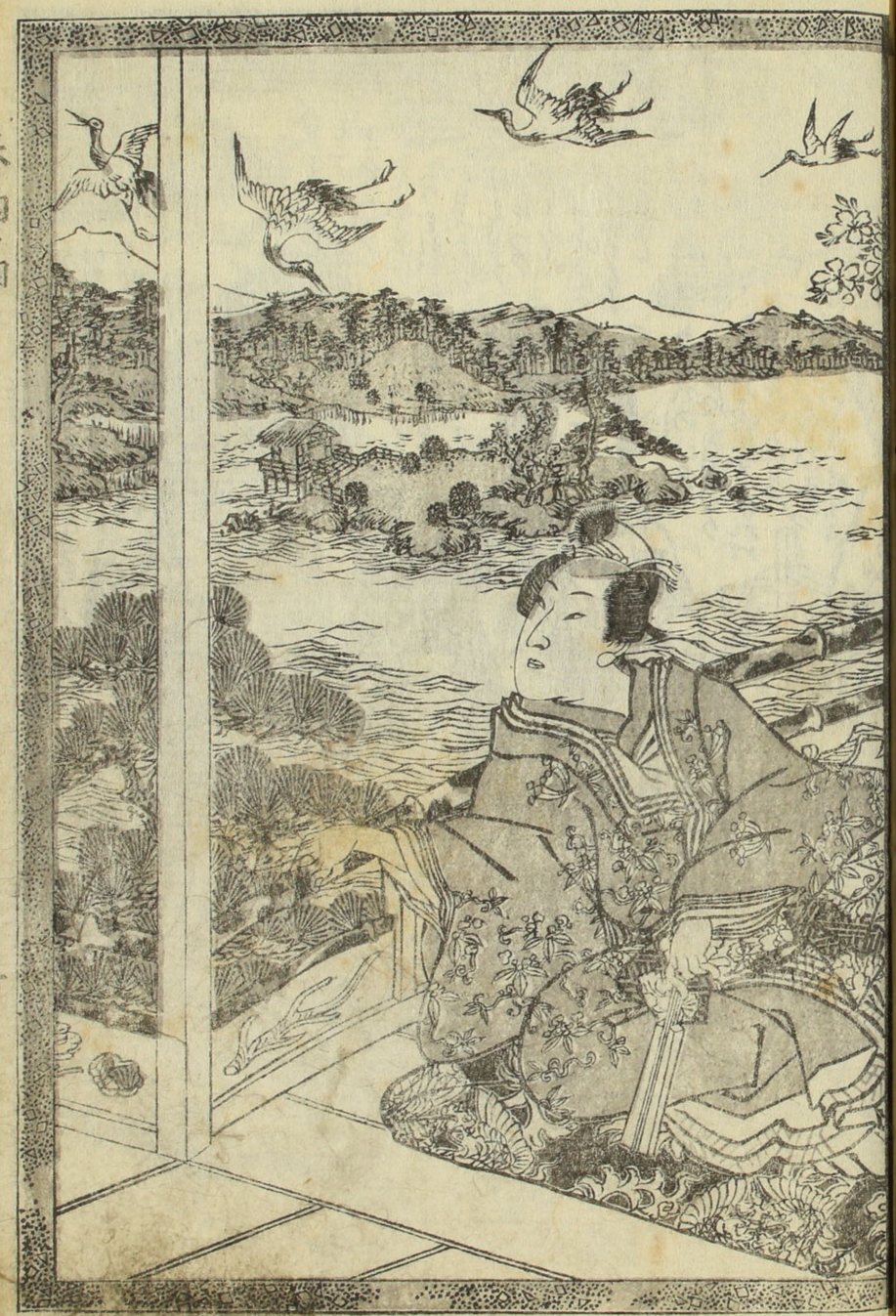
徐耕堂

顔の魁ハ自鏡ゑ向てゝ知る哉。智道を失ふ者ハ自あらむるとあらん志。諺ゑ臭たゝの身ゑ〳〵ゝ己を知らざる謂めく。流行ゑ送ゑ〳〵ゝの。今様の花美ゑ。摸事かく。時めく気でも似て非なる。銀と錫。金と真鍮。雪間の烏ゑ。ぞうしてゝも。其色さゝゑ隠されぢ。木患子ハ木賊ゑて。三年磨けどゆつたり黒し。下手いろゝでも下くるゑど善悪一如の道理ゑて。作意ゑ本性失ひぢ。勧懲の肥とゆへど。空語ゑ実の入根無草。四季の故事ゑびゆゑ。露野若草薄く濃く。色く見る春雨草紙今を春辺と咲花の。難波津習ふ児の習ひ。その下の句の文字の数十四の編を続事とゝなりぬ

嘉永八乙卯孟春

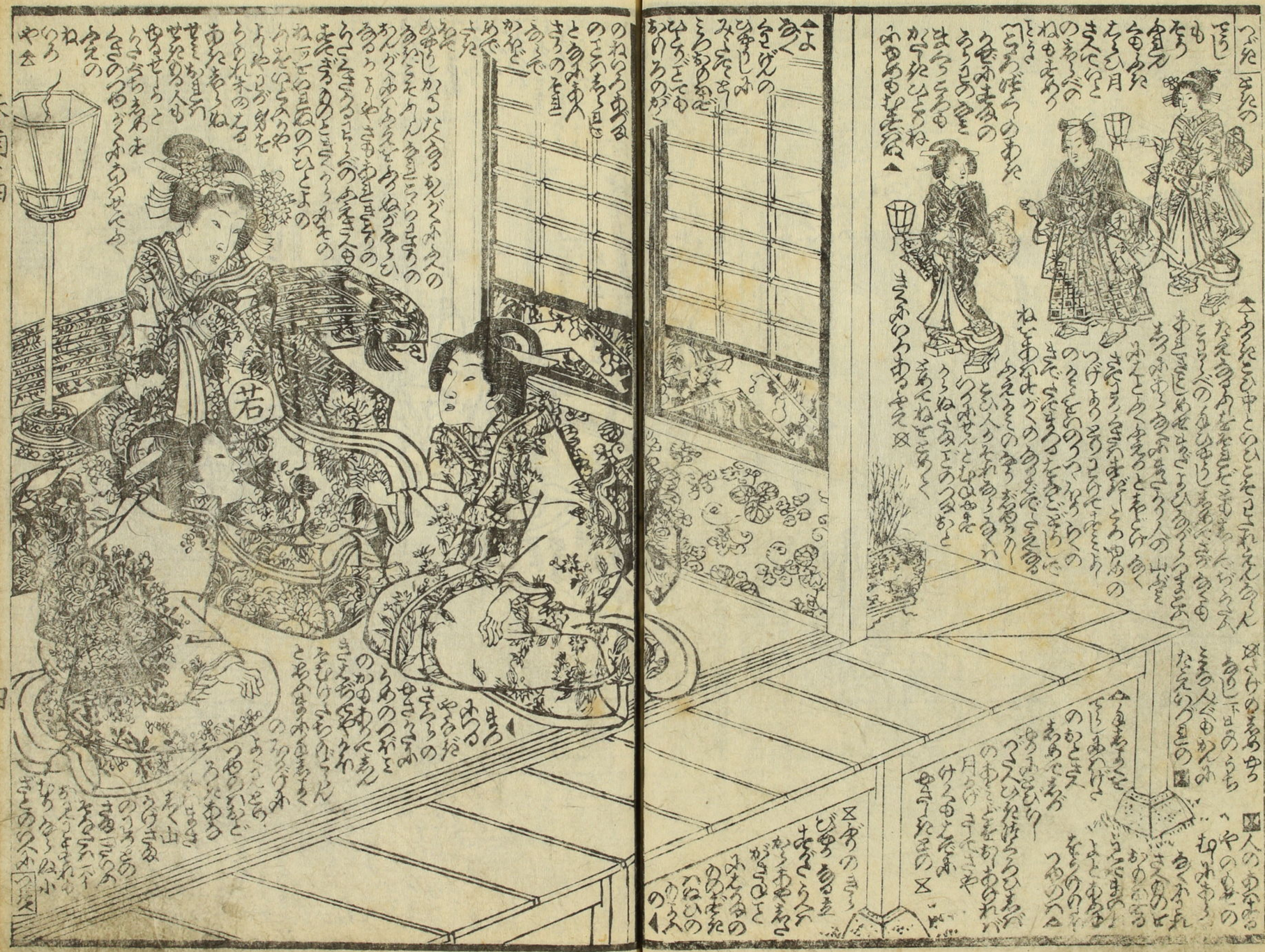
(東四)

緑亭川柳記



十三ぺんのつぎ

あきれさんのうるさくまるたもめるよの月のあかりろめろもて
うこの助

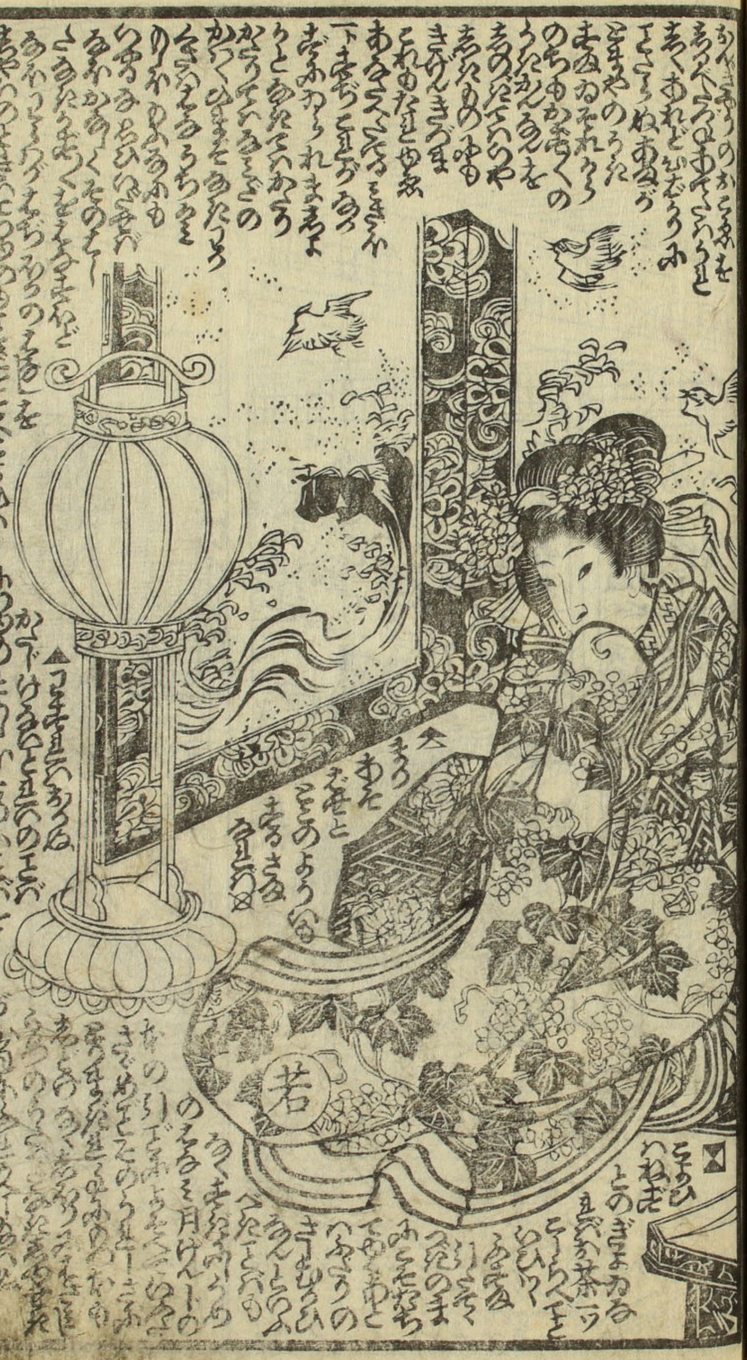

若

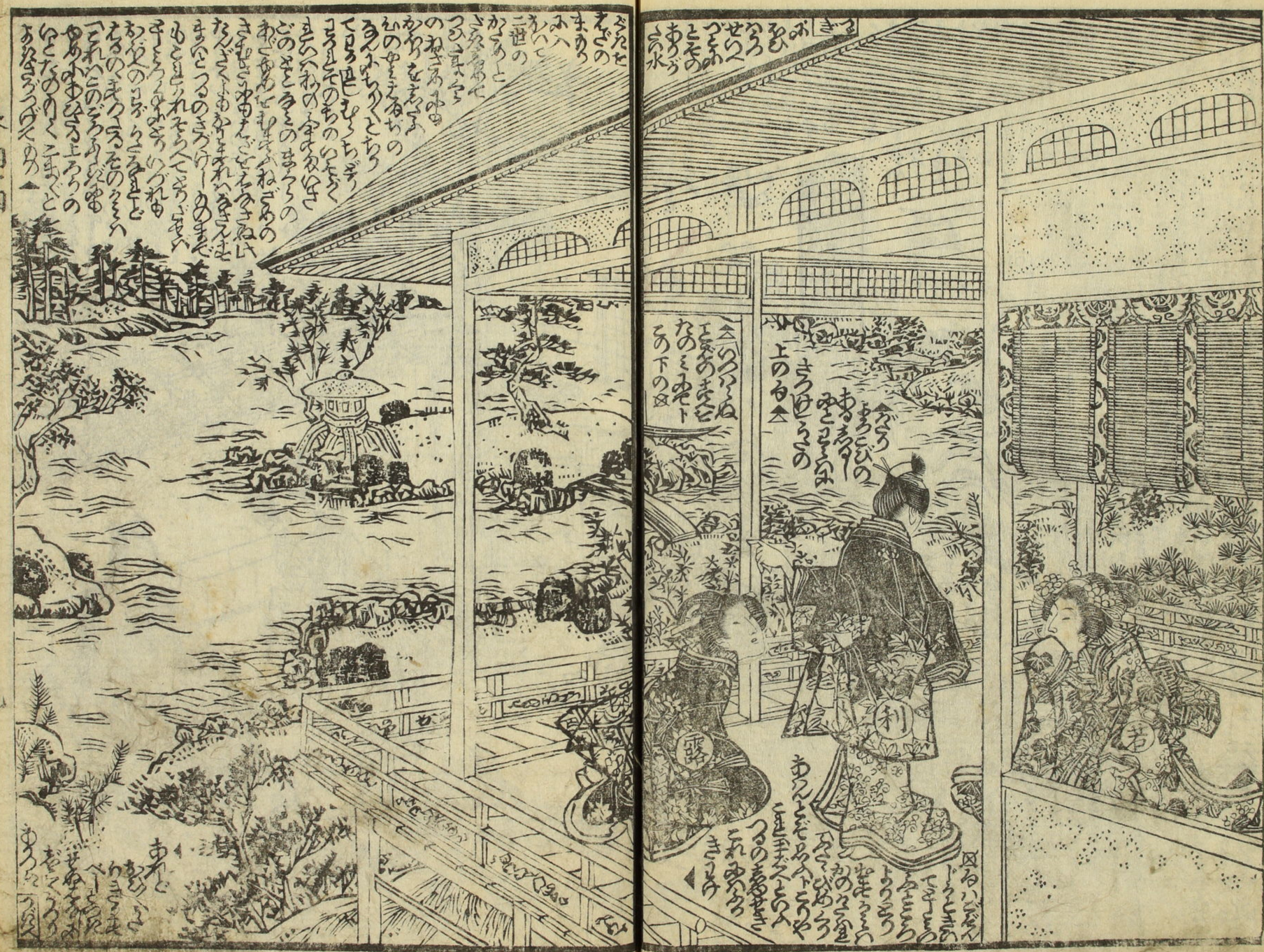
若
利

汐
若

利
雪

利


若


利
露
若

川柳作 國貞画

嘉永八乙卯年新鐫藏版目録

遊仙皆春雨艸帋　十四編　十五編　一　綠亭川柳作　壽齋國貞画

田舍織糸線狹衣　五編　六編　仝　同　作　画

政談國盡　初編　二編　仝　一雄齋國輝画　作

摸花櫻草語　中本一冊　梅暮里谷峨編　一雄齋國輝画

天神一代記圖會　中本一冊　柳下亭種員著　一勇齋國芳画

容色仙代萩　三編　一筆庵英壽作　一雄齋國輝画

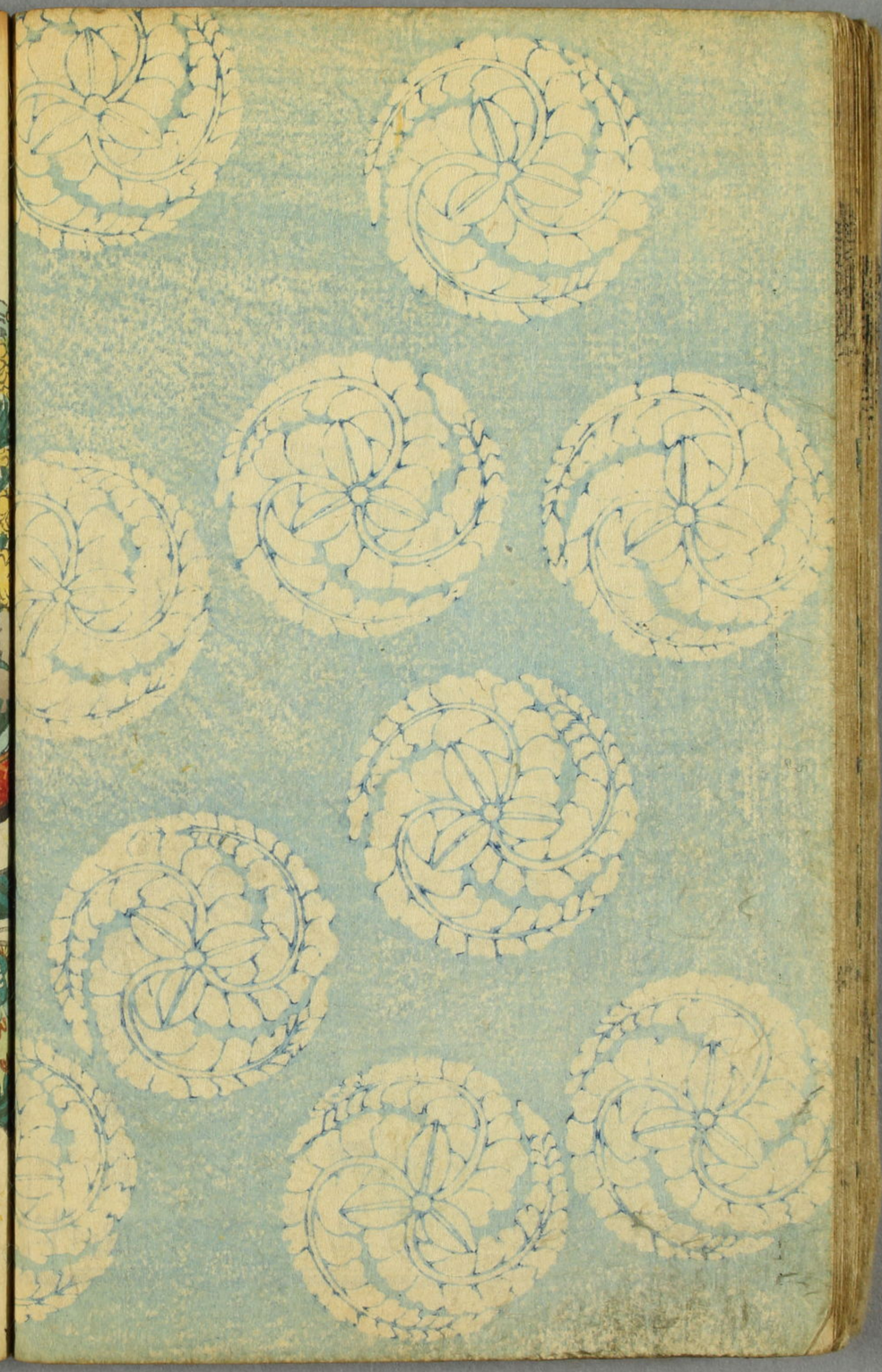
東都書房　馬喰町貳丁目　錦耕堂藏板

奔蝶樓國貞画

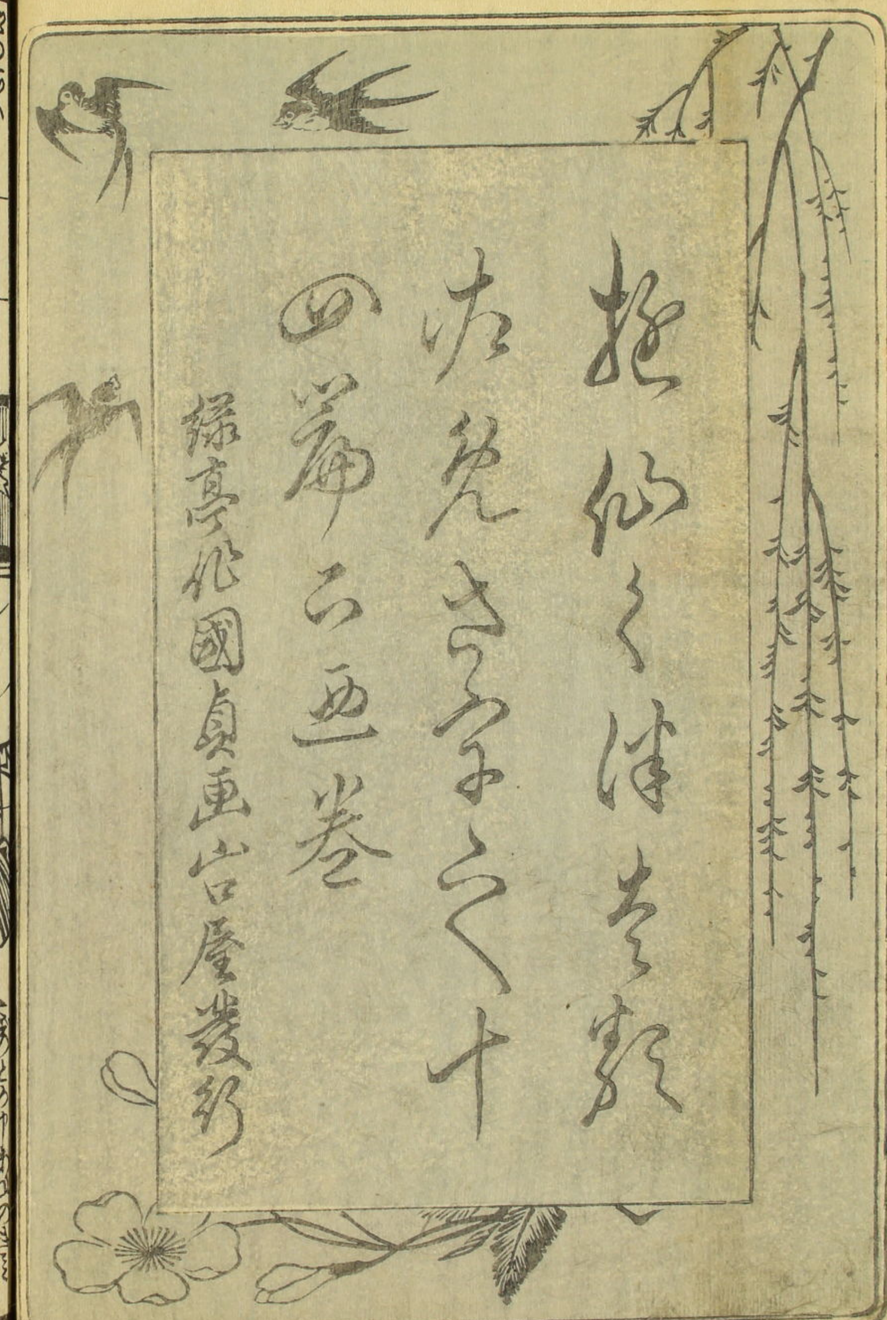
春雨

十四編下

彫刻堂

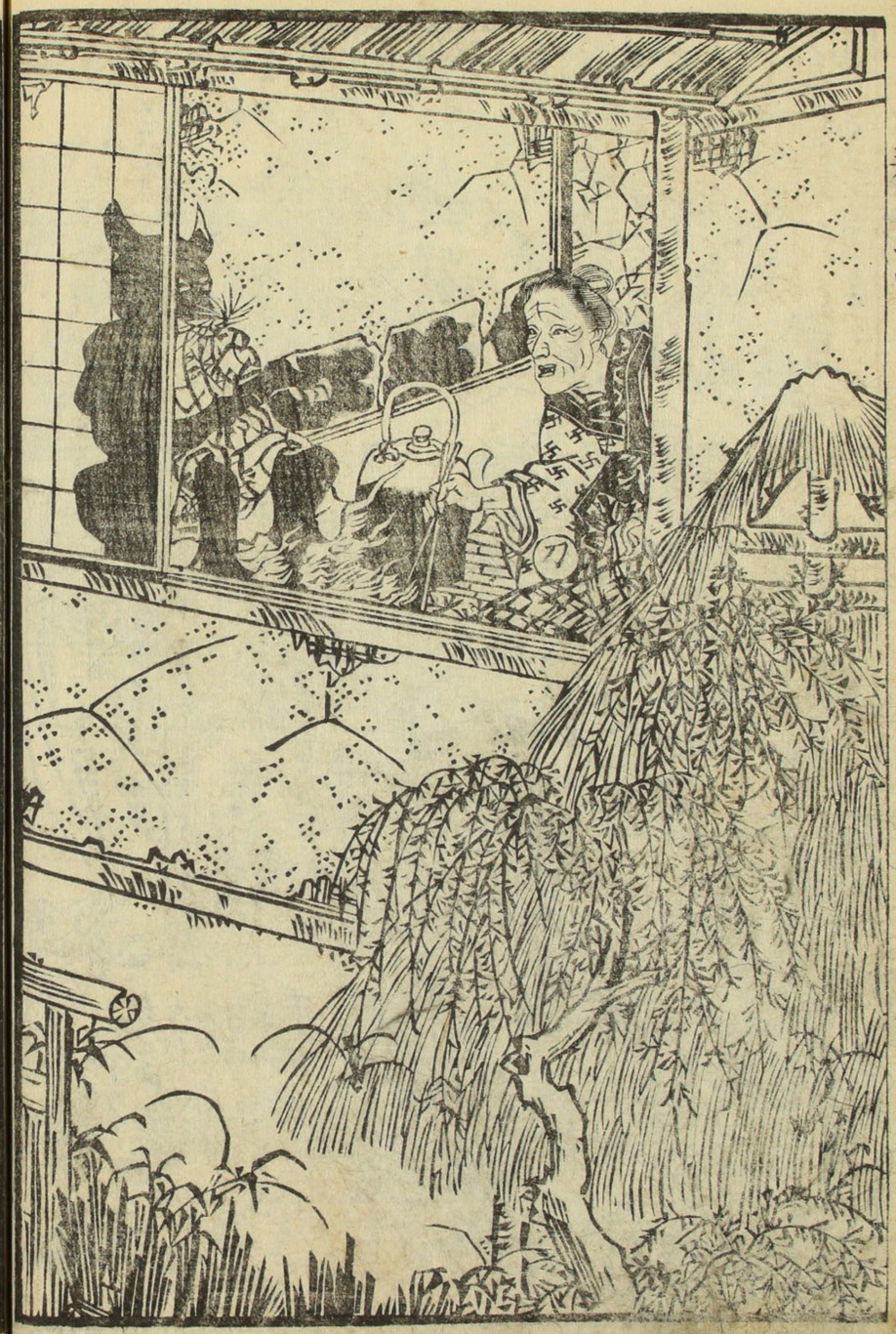


利
兵


梅仙くん侍者歌
法花さんまい十
四篇五巻
緑亭北國貞重岩屋義彩

若
汐
露

西



▲[illegible]▲

つゞく

きさらぎ

[illegible]

つゞく

力
池

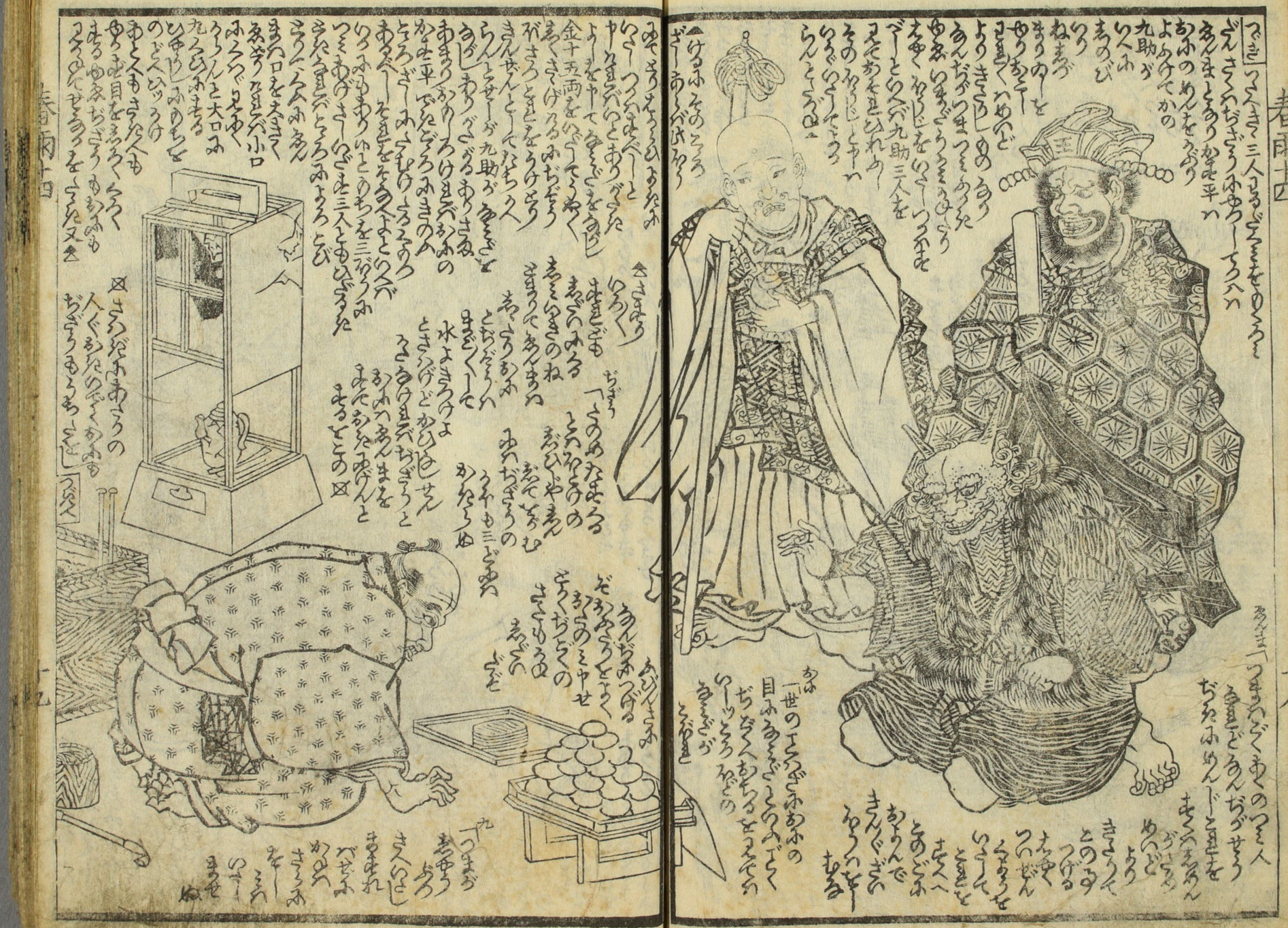
作
粕
鉄

つぶて目のやうなふねりつけて
ゐて　てあたりうさぎいろものの
ごてくきたくさまで目ろちあり
まてあまびあどろたあいてく
いたもつたあまぞいけ田づかえ
このようをつげちさーたりの
みるとまたをちーせかつまさ
ぞいそうろうにむーのかさぞ
たてふもてーうのあうどんのせた
みてあちあひとえねゐまび
いてたたせゆたこのようを
つげるふちさうぞたてもぜんにを
いたぞとけぞとあのひのまび
ーとぞふちさぞびいそたのろいを
大ぶろーたたあちさぞふせあへせ
たていちどのこあ吉をちぶひつ
いたぞたふいたそだみちさたの
むさぞあふのくえみげのびろう
いけ田長平いろうゐのみふふ
ぞーようーー人子どもをのせ
ざのあろうたをもつくてそのゐ
あてをうーけるみのめを
ちんせゐむあろうのめどのへ
いけ田いぞーどみあぎむろ
まてきぞちろひーと目ひた
そをひたをそろうつこーひつて
ゆろうろうかの三人のめぞのへ
ぞどうあいてーを大ちーひて
かろうーうぞぞーどぞうつげみて

▲ふいうふ
ろろ　ろも
四ろうよう
いで山くを
あろひと大あり
ありぞー山のこぞ
あろれあち山
ろまていたまを
ゐぞーいくもあぞま
人のけぶもあやく
ありけりかの三人の
ゐるめども
からろじてかをと
みげさろいの目の
ざのてろふやどう
ろぎんもゐく
とまりけるうち
とのてろのぞんろふ
百せろ
九助と
ゐの
▲

とのやどのものも
さんぎまぞひ
けるもぞん作
ちとあかる
そろーとを
まてとぞーて
さろうだゐるる
ゐまたちさーを
だまーてのあのあ
ちたをるいふふまて
やーろうかるとぞれ
どあのあんーどのの
みとのいたあるあ
おどろたあたとろへ
ととこのむとと
あてろーたた人よ
さまろうの人の
やどのあるさー
とあひひぞー
ろれば三人り
ろろくまぞ
いたぞん自へ
のろ人いそ
ぎーふこの
とたあんてん
人をむそ
どたあまみ
ゐろけうぞ

▲ゐるあるぞちぞ
ぞろのどろふろう
たろいあふせ
ことのろ
ちろーをおヒ
ゐげたゐる
ようを
つぶて



右
吉
殘

小

藏版新刊珍奇雜書略目録

陽東太郎後世譚 九編 十編 西馬作 貞秀画

俠銘鑑 三編 四編 西馬作 國輝画

岸柳四魔談 四編 五編 同作 國輝画

假名繪本忠臣藏 二冊 全 作 同 画

勸善懲惡 乘合噺 七編 八編 柳下亭種員作 一壽齋國貞画

詞花萱草紙 初編 二編 墨川亭雪麿作 一雄齋國輝画

江戸鹿子紫艸紙 二編 三編 梅彦作 豊国画

象頭山多宮日記 楽亭譚 國輝画

今様八犬傳 七編 八編 春水作 國芳画

書物問屋 繪草紙問屋 東都馬喰町二丁目 和口屋藤兵衛

遊仙窟
緑亭川柳作
十五編上
仆題画之図

安政四丁巳
孟春新板

遊仙眷春雨艸帋

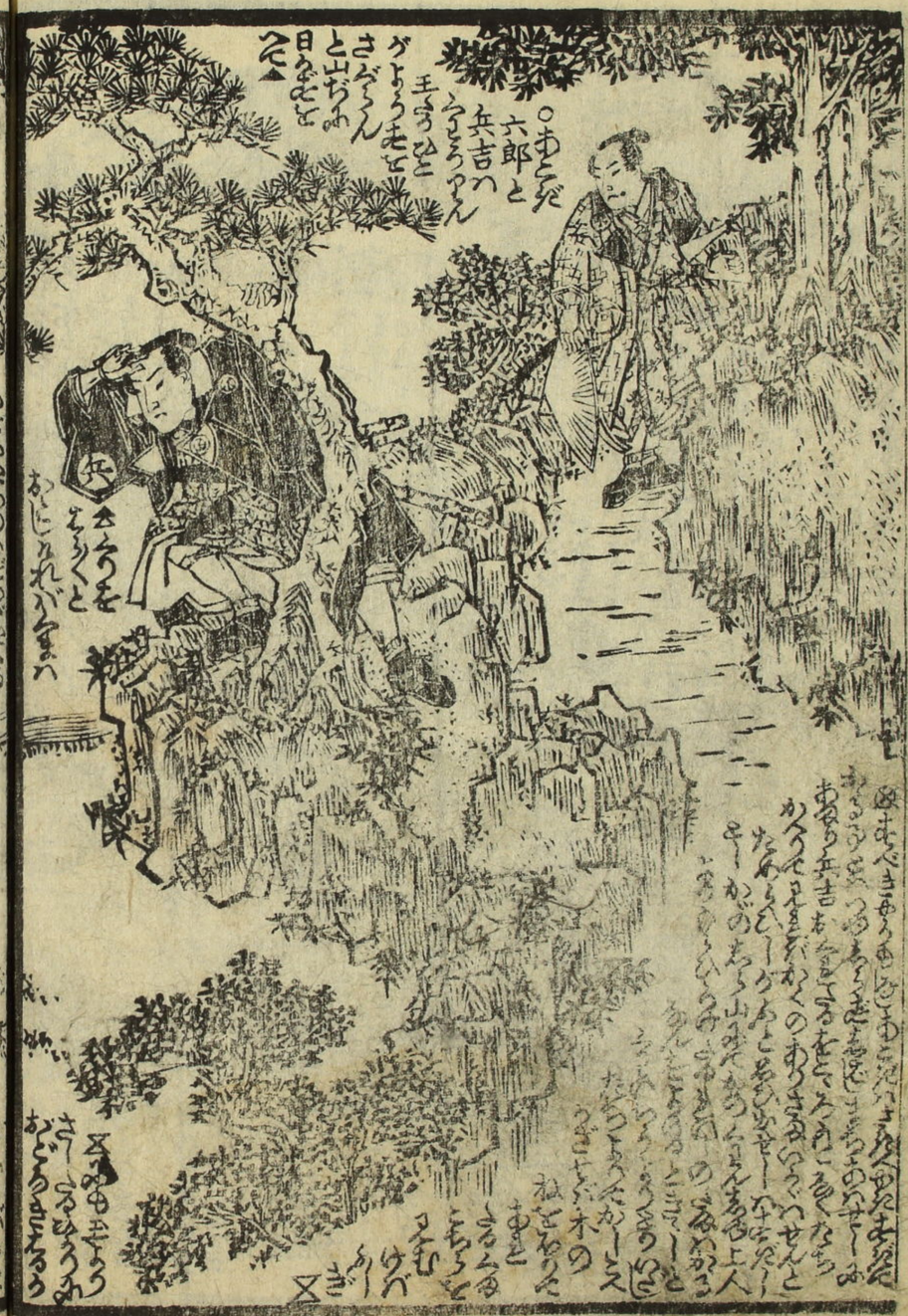
緑亭川柳作
歌川國貞画
十五篇上
彫師 [illegible]
彩耕堂板

花を翫べば其白い袖ふ西ちう上代の賢人君子も濁世を避
みぢう心を慰い花ふう陶淵明菊の隠逸を好ふ周茂叔
蓮花を愛ふ皆清浄の香を慕ふ故多ち人ふ譬へく
百花の賦ふ花ど鄙のゝべせた心たぐした女ハ泥沼の中ふ花
菖蒲の咲ふ似ふう又紅粧を余所ふ荊棘した女の餘念なく
子を愛ふ情ハ喻バ櫻桐の葉の夜叉頭如ふを覆ひ其花を
労るぐゝ今是ふ類せし人のよふ綴りしが實ふ木ふ
ふ草ふもふ山野地園ふ生立香細を花器ふ移し陰陽ふ請
屏く水際の立活ふふ等く玉椿の八千代まを誉らを正直柔剛ハ
草紙のうへふも教誡の端ともなるべし

安政四丁巳歳春新刻

緑亭川柳記

十四へんのつゞき



つゞき

のつゐる兵みやと
おんを言ひし
さてさへめうえだいへくさん喜吉
二人の玉をあつかりしそその
きぞくもさるゝ十人のぞうぞくを
あつぶりして金わもたぶうやく
そのみつくようきさうらん
つるぢのひきあくとの山
中なるまりしうけつけた
さうらちふみつ玉のんどの
かうくと丈わさをうむ
よみわきそぶ喜吉ろもなく
そまりそをるまちの花ろふ
一ッさんの花に赤あり上吉
みのうちのの中のまき
ありそみかけまべくさをとう
やうらんと有ど木の中のおり
がさくいりくしそまらんと

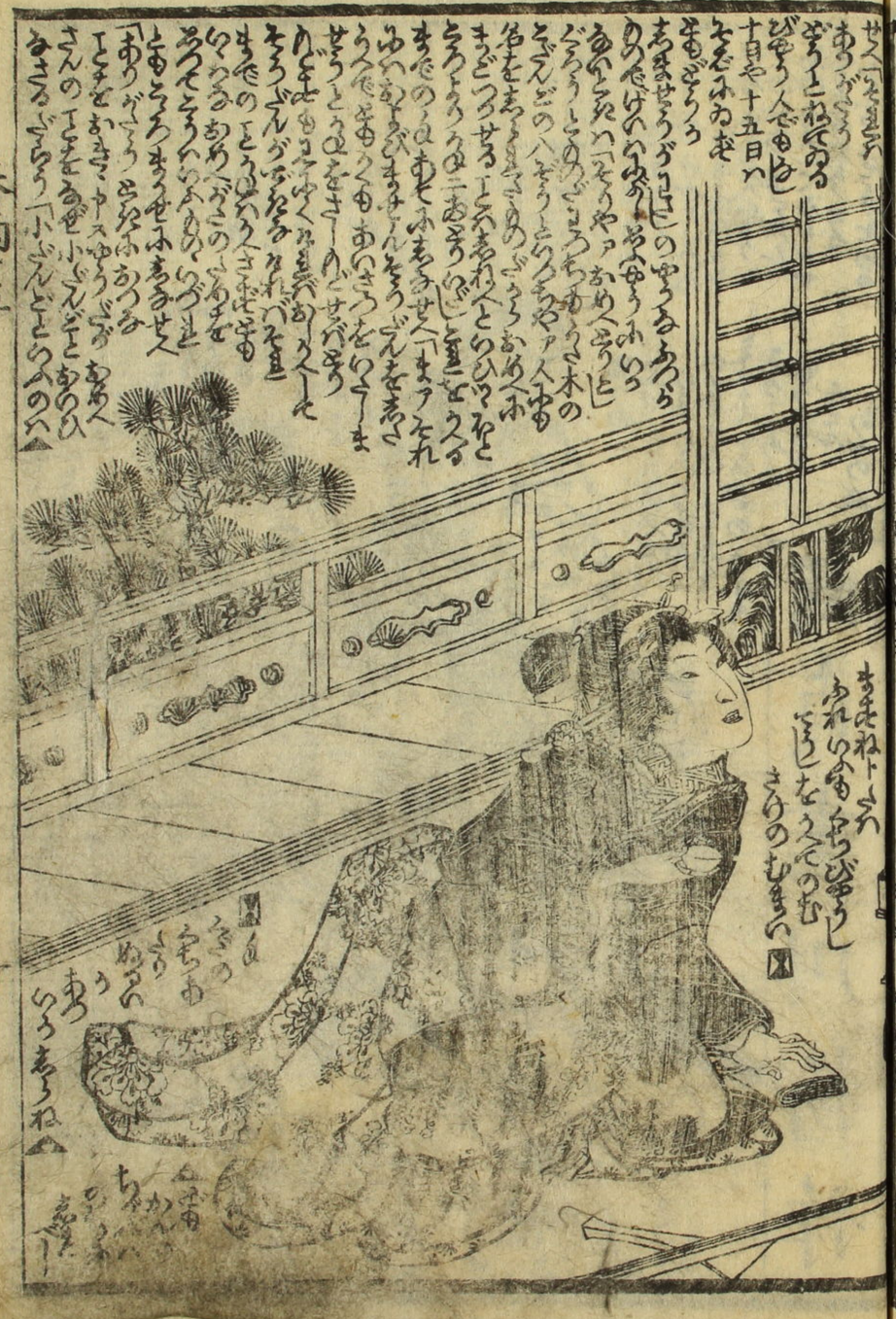
くみうをめがらしあまきる
とうちあきおゝくとつの母に
ゑびみのけなるでうりたとを
ゑび一あぶをねらつてちつくう
一ッさへありくあるら祖わちつけれ
うゑのむさの二ッもちかうと直をる
らくのかんろのぞくそのうきた
をとくらへんめの足はままもらうんと
[illegible]
あげつけ直にてうるとの
ひあるべてのわからつと
さぐりてあらつざれわ
いくいせんとに言を
あせうきるみ中う
ねかとのゝへてかむ
と直をうう
ねべえあく
あり
せう
ふく
ある
みのこ
るべし
そふ
く
ねべ

一身み
かゝるいのち金んとそまを
あせるのみけとのつくう
かくとの山なよう
おまとのおまている
大くまきいもつのゑ
そうるぶきそく
と直のかわおぞろき
ぼうむとよりも
のちかいかん
をらるよのんと
うろまそわれとまどろみ
るりにおつる
おりれまわ

ざんぶ中さへかり
ぐ一わとだつでうを
かきちぐ久わとの
ぼうなそれいうき
くそ小あぶらふ
かけもれうととを
たちまきまが
まわおくしをり
と大うぬ
よろこび沢一方
ろのあわろ
まる玉一れ
天の
たま
のめ

ぬきさ九
とうまよう
ありそも
そうさんが
まうきくかんとを
おぐるるあまひ
久かんと二人わ
いまさんせき
なまのうちう
つくゞおまもし
りまゝながうつゞく

たぐさらくとふきえさう一たゐくおわろうと
まるゝりおちゝよりつ兵吉わ二だへくちはおひう
なあびさつあちらせとたさやゆさへもよく
あり一あうなの木のうとこの山中かれ
をし元ののとこれ丈ぐうられバぞう
むこのぶちりときぶりゐまぞうへ
うしだこれ天へきぼとくうなを
おとさえんとにくまぞくめ
引うけ一るうん玉もうさ
まりそうえんと兵吉わと
ごまぞるさみの金の泉の
さてたるそやりく
ちろーてうりととの中走
まるみ西さとくまの人
てらうらんとおる丈
ひらくまさうさまべ
そのてきんぶうねの
た山のひあちまび
よく身わのつきさ
ありあくされ
まさのわくの
ひあもびん
のきさん
わまべ
うちうつせん
あるべしとうえて
わまべおぶろき
ながうふりそうわ



文久二壬戌年新鐫藏版目録

遊仙沓春雨艸紙　十九編　緑亭川柳作
二十編　一壽齋國貞画

田舍織糸線狭衣　五編　仝作
六編　同画

父漢土　母和朝　國姓爺一代記　中本三編　初編ヨリ　三編マテ　讀切　假名垣魯文編
歌川芳直画

月宴更科譚　二編　松園梅彦作
三編　一勇齋國芳画

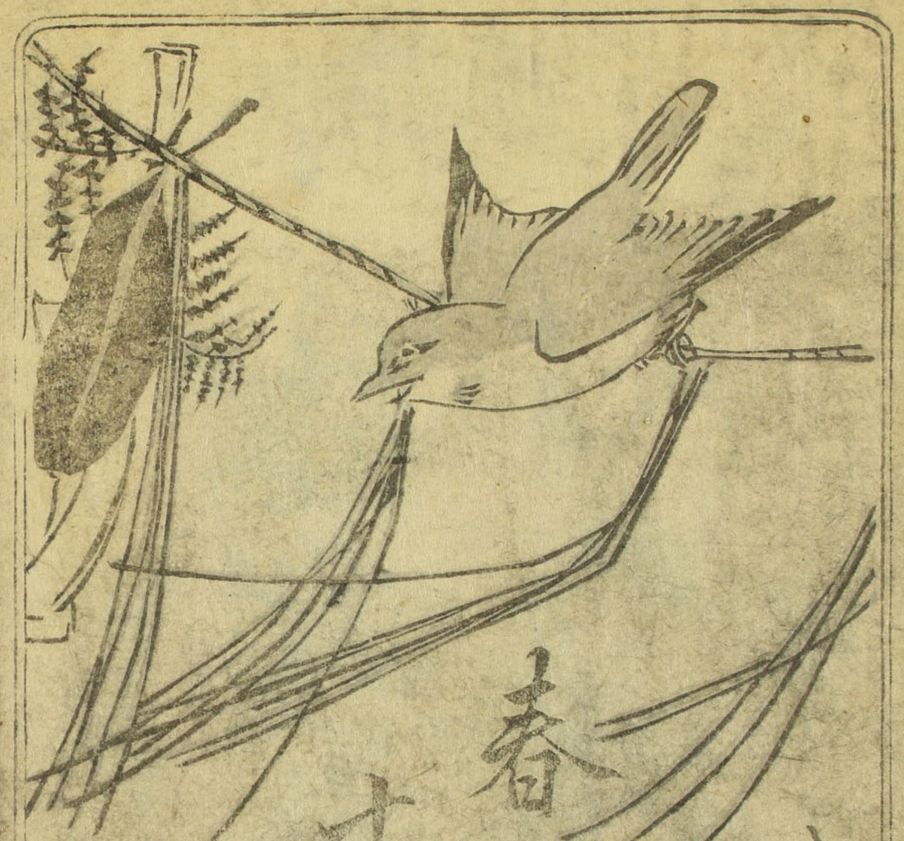
天神一代記圖會　中本一冊　柳下亭種員著
一勇齋國芳画

容色仙代萩　三編マテ　一筆菴英寿作
讀切　一雄齋國輝画

東都書房　馬喰町貳丁目　錦耕堂藏板

一壽齋國貞画

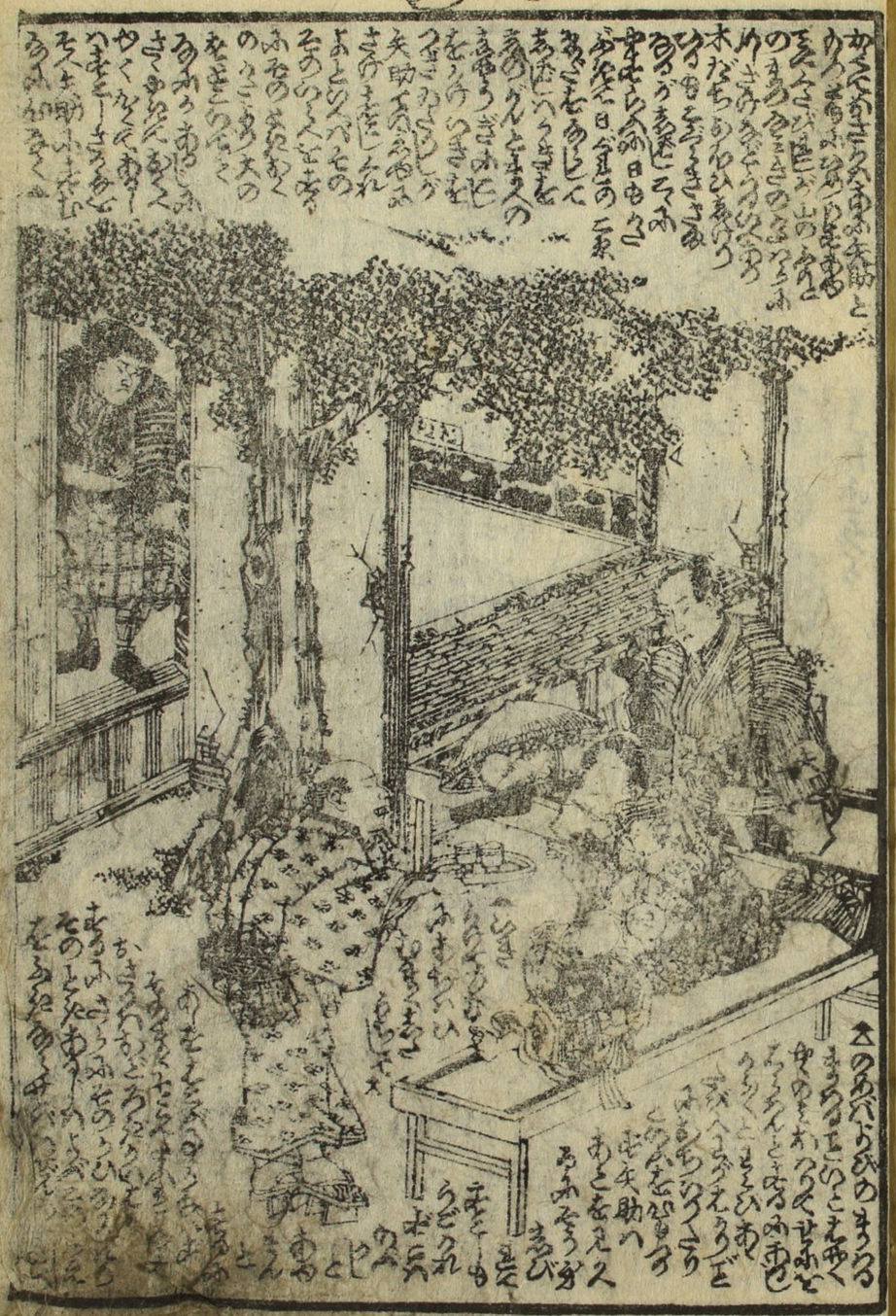
春雨



春雨十五篇下

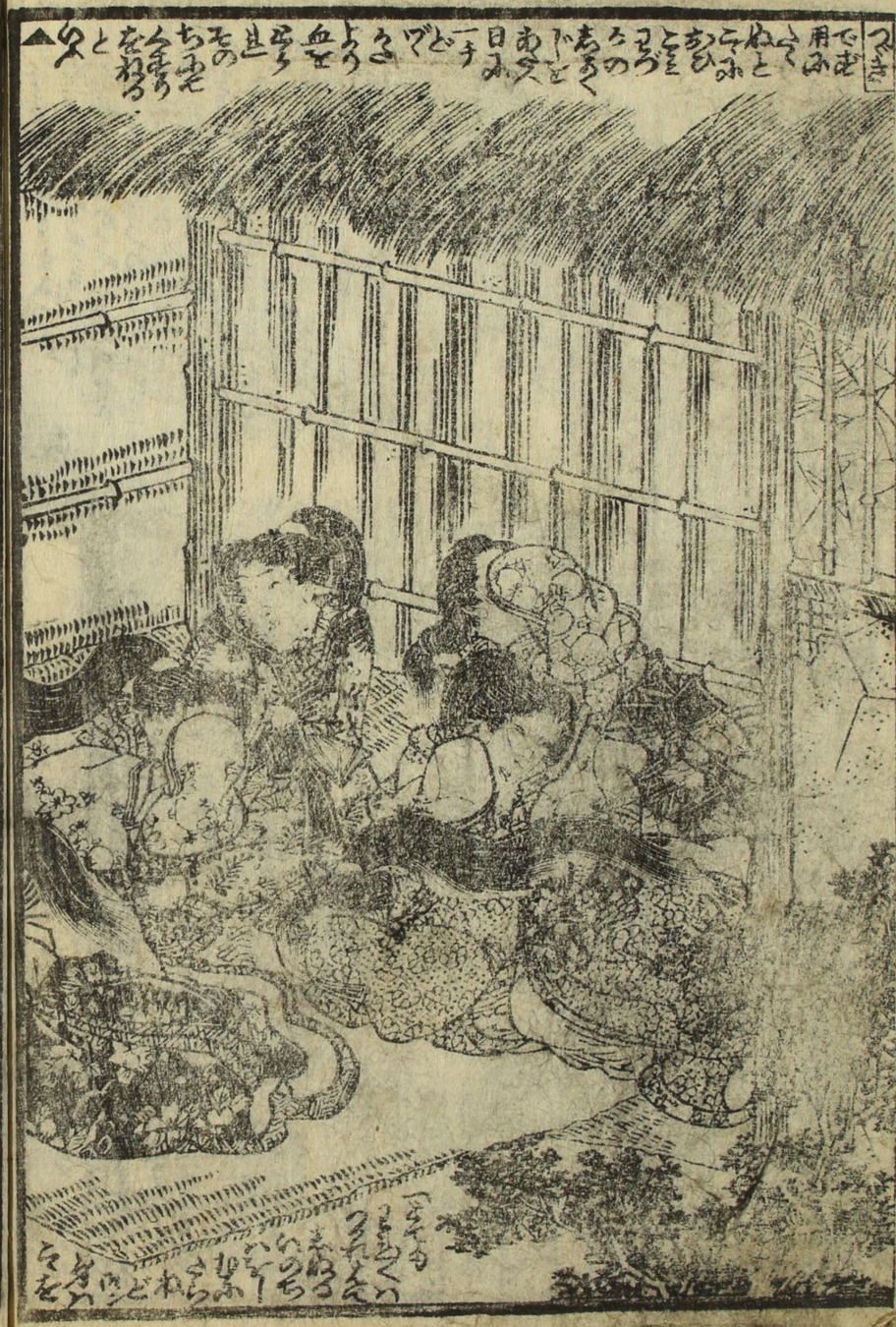
川柳作
國貞画

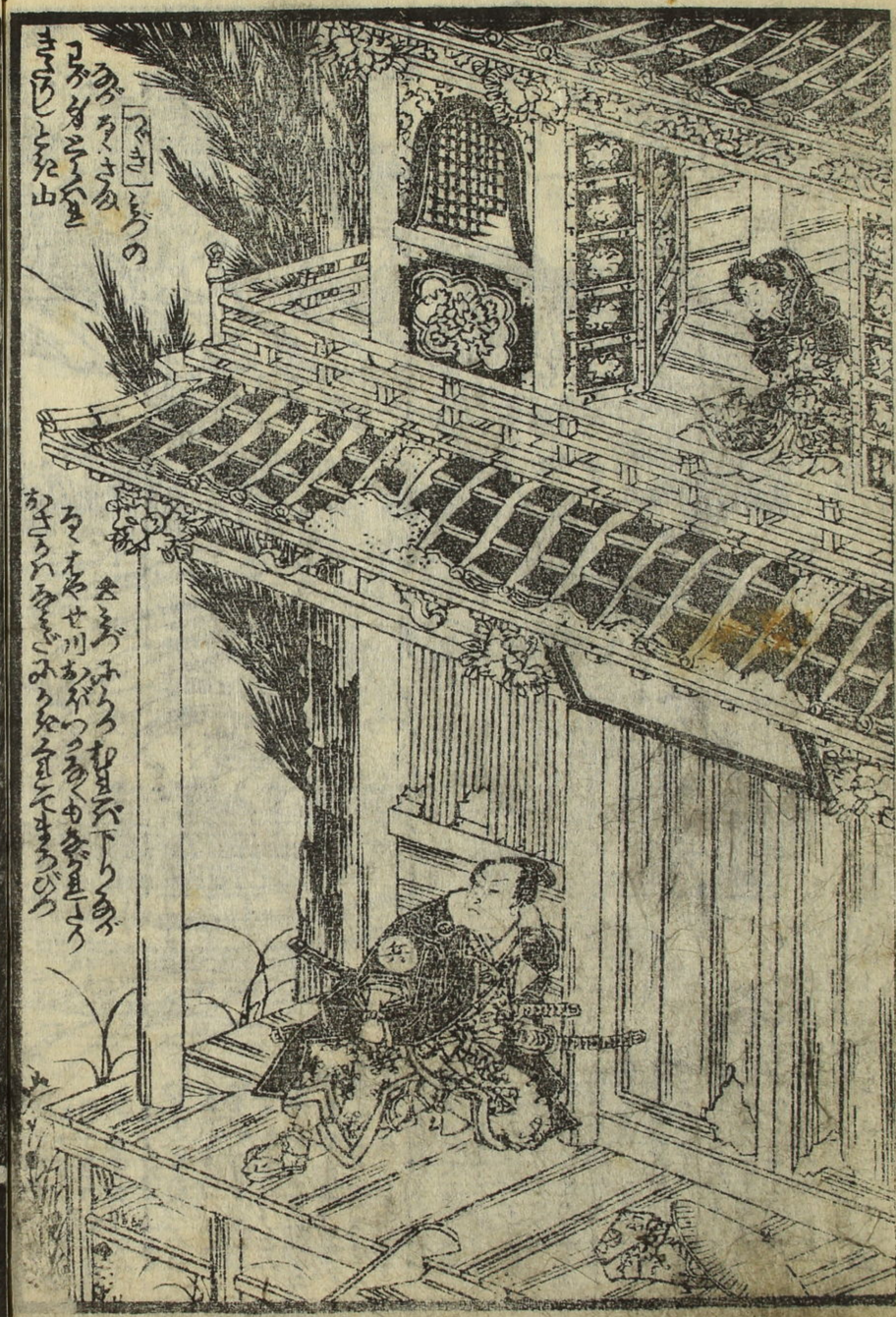
山口屋
藤樹

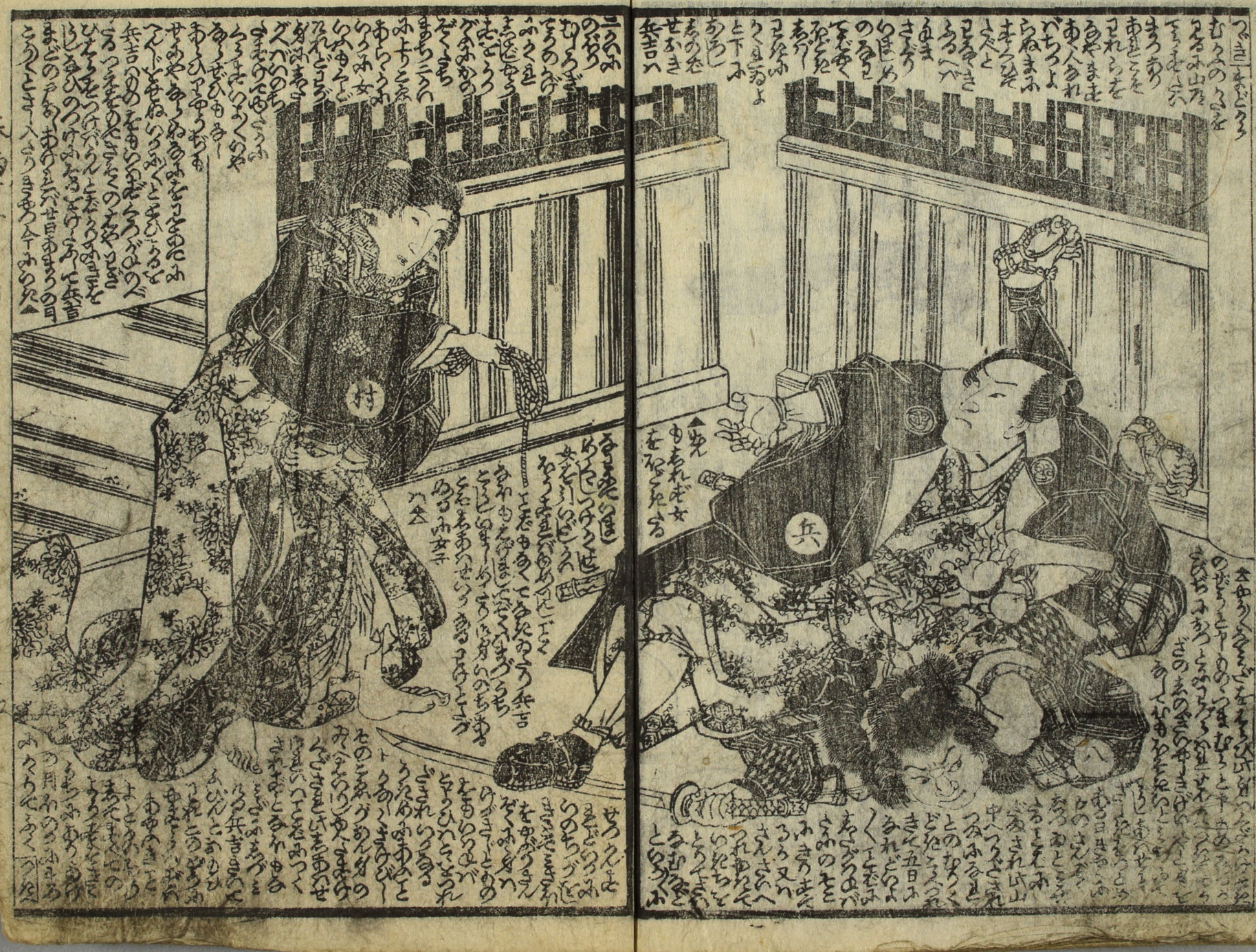


「日うぢ

山






兵
村

若

藏版新刊珍奇雑書略目録

陸東太郎後世譚 九編 西馬作
十編 貞秀画

岸柳四魔談 四編 同作
五編 國輝画

伊賀越仇討 樂亭西馬作
一鶯齋國周画

俠像水滸 俠銘鑑 三編 西馬作
四編 國輝画

勸善懲惡 乘合噺 七編 柳下亭種員作
八編 一壽齋國貞画

詞花萱草紙 初編 墨川亭雪麿作
二編 一雄齋國輝画

初昔見聞録 二編 有人作
三編 芳盛画

松園白妙譚 二編 泉成作
三編 國明画

今様八犬傳 七編 春水作
八編 國芳画

書物問屋 東都馬喰町三丁目 繪草紙問屋 山口屋藤兵衛

此